

## (12) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

### 前回からの主要変更点

	前回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
個人消費	堅調に増加	増加	
住宅建設	減少	大幅に増加	

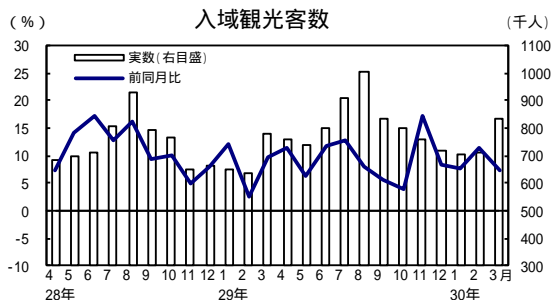
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、1月は、旅行会社の販売実績が前年同月並みにあったこと等により、前年を上回った。2月は、個人旅行を中心に販売実績が良好であったことや航空路線の拡充があったこと等により、前年を上回った。また3月は、各航空会社において離島路線を中心に入込が良好であったこと等により、前年を上回った。

外国客については、1月は、年末年始の旅行需要の高まりや航空路線の拡充、クルーズ船の寄港回数が前年同月比で増加したこと等から、前年を上回った。2月は、春節時期による旅行需要の高まりや、クルーズ船の寄港回数が前年同月比で増加したこと等から、前年を上回った。3月は、航空路線の拡充があったことや、クルーズ船の寄港回数が前年同月比で増加したこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテルは前年同期を上回ったものの、リゾートホテルは前年同期を下回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	30年3月
入域観光客数	2,748	2,281	2,252	836.5
(前年比)	8.8	9.6	8.8	7.5
ホテル稼働率	87.9	78.5	80.5	84.4
(前年差)	1.0	0.5	1.0	0.5

(備考) 1. 入域観光客数および県観光政策課調べ。

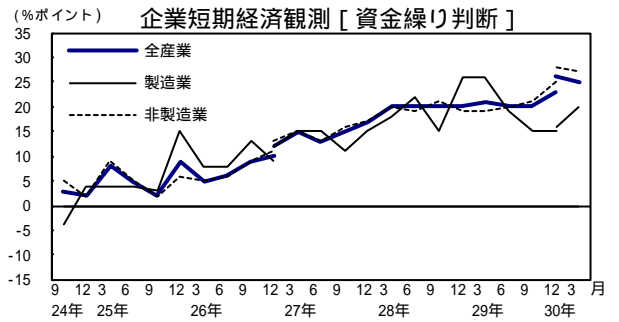
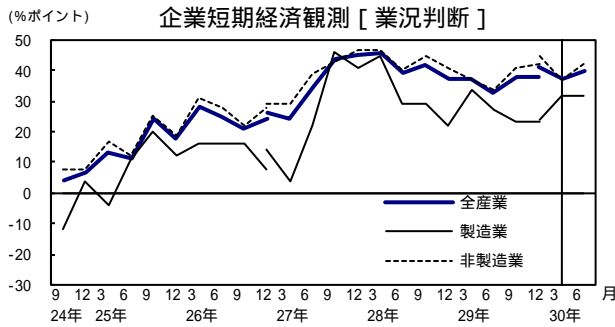
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(12) 沖縄

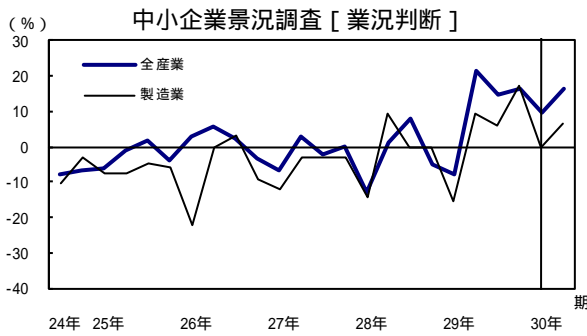
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測  
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

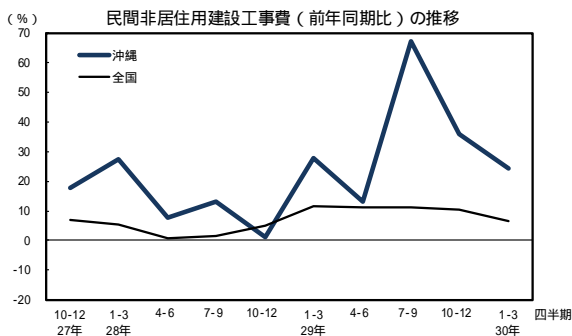
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]  
「仕事はあるが、人材確保、原料調達等でなかなか受注しにくい状況である(会計事務所)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績見込み	30年度値
全産業	39.4 (2.9)	19.3
製造業	1.4 (5.6)	14.0
非製造業	46.9 (4.0)	23.5

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

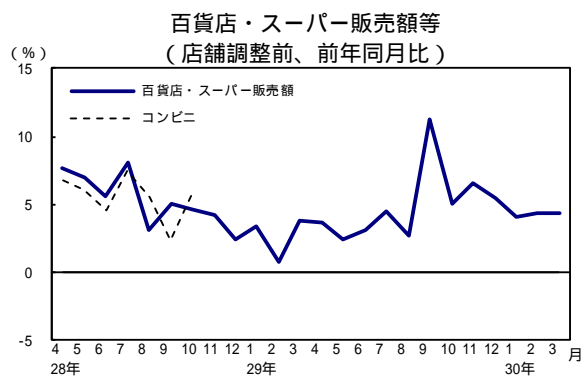
1月は前月比0.3%減、2月は同0.4%増、3月は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額

1月は、鍋物商材で食料品が好調であったことや、外国人観光客による消費が伸長したこと等から前年を上回った。2月は、三連休やセールでの春物や紳士服などの動きがよく、衣料品が増加したこと等から前年を上回った。3月は、前年より気温が高く推移し夏物が好調だったことにより、衣料品が伸長したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

「毎月好調に推移する沖縄県への入域観光客数ではあるが、客室稼働率においては、3か月前は前年を上回る実績ではあったものの、今月は前年同月実績並みである (観光型ホテル)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

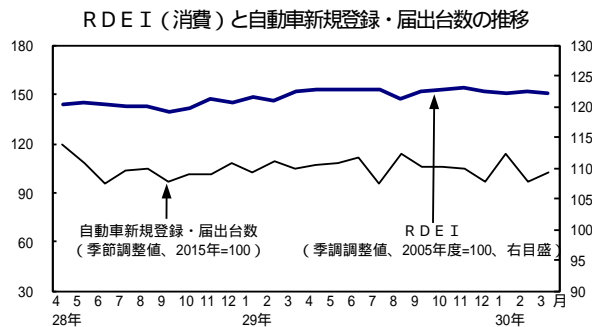


	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.4	0.3	0.4	0.5
百貨店・スーパー(*2)	4.3	4.1	4.4	4.3
コンビニ(*2)	5.8	4.9	5.6	6.8
乗用車(*3)	3.0	9.9	11.0	3.7
(季節調整値)(*3)	1.5	17.2	15.0	5.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行別冊支店調べ、2016年11月以降の計数は不連続。前年同期(月)比 (%)

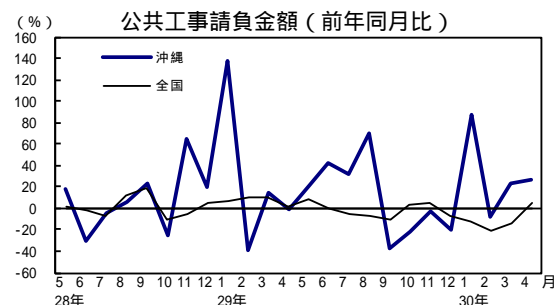
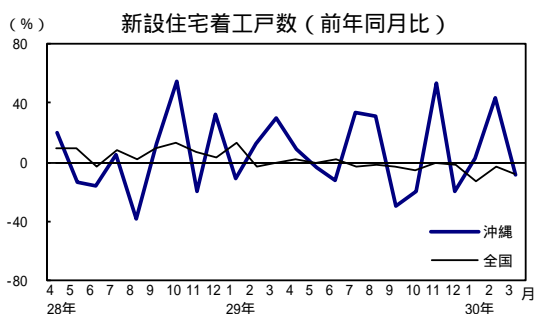
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%) )



(2) 住宅建設は前年に比べて大幅に増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

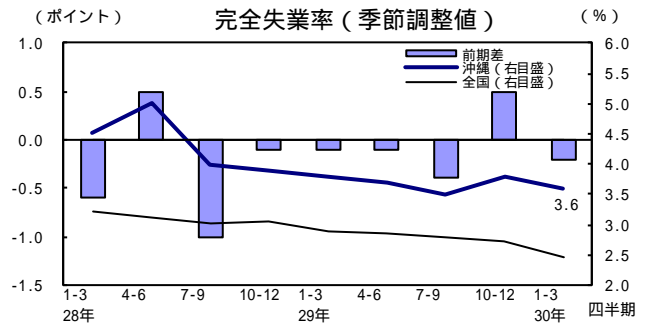
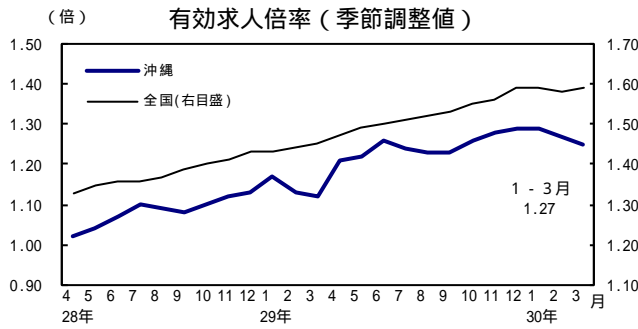
(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率  
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

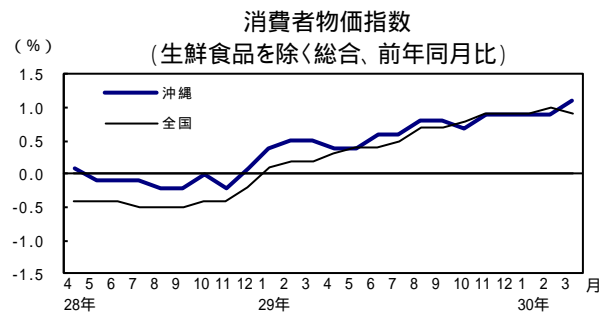
「増加傾向にある求人に対して、求職者数の減少が景気回復に影響を及ぼしかねない(学校 専門学校)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件, 億円, %)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	8	7	16	12	6
(前年比)	33.3	16.7	77.8	40.0	100.0
負債総額	6	5	25	16	15
(前年比)	28.6	32.4	98.2	41.4	1028.5



#### 景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

